

第15回「ハートミーティング」意見交換の内容について

メンバー 当研究会は、主に、都市計画局内に所属する電気技術職及び機械技術職の若手職員16名で構成されています。職員の技術力の向上を目指し、エネルギーの合理的利用のあり方を研究し、低炭素社会の構築に貢献することを目的として、平成21年1月に設立されました。当研究会では、「エ



ネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」「地球温暖化対策推進法（温対法）」「地球温暖化対策条例」などの関連法規の学習や、「エネルギーの有効利用技術」についての原理、効果及び費用対効果の検証を行っています。

また、設備技術の資格取得を支援するため、勉強会を行うなどの活動をしています。

市長 エネルギーマネジメント研究会とはすごい名前ですね。最高ですね。エネルギーマネジメントは、環境モデル都市を本気で作るために、市政にとっても、責任あるひとりの人間としても、最大のテーマです。

例えば、区役所新庁舎の構想がありますが、新しい技術を利用するなどして、従来型から8割のエネルギーを減らすことを目指すなど、市として、エネルギー削減のモデルの取組を実現していく。そのリーダーがみなさんです。自らの業務以外であっても、情報を共有するという姿勢に共感しています。

メンバー 私達は、異なるテーマを探求する3つのグループに分かれて議論、調査を行っています。1年かけて取り組んできた活動内容について御説明します。

<第1グループ>【建築物の保守管理に関する調査提案】

<第2グループ>【省エネルギー・地球温暖化に関する検証】

<第3グループ>【技術能力向上の取組】

市長 これから燃料電池が伸びていくかと思いましたが、そうでもないですね（笑）

メンバー 各企業の競争が進めば、値段が下がり、効率化も進みます。初期は値段がどうしても高いものですが、たくさんの方が必要とすれば、下がってきます。

市長 技術革新は日進月歩ですから、それを見極める力が行政にないといけませんね。

メンバー CMなどでエコの話はよく出てきますが、実際は、比較してみないとわかりません。

市長 的確に見極められるよう大いに技術力を高めていただきたいですね。

メンバー いかにメンバー以外に知識を広げていくかが問題です。

メンバー 建築士のような、仕事上必要な資格はありませんが、メンバーは、資格取得に意欲がありますので、前年度の合格者がノウハウを話すなど、合格率をあげる取組をしています。

メンバー こちらが今年度の資格取得の一覧表です。今後の予定としては、若手技術者の能力の向上を掲げています。

メンバー 一人ひとつの資格試験は受けようと取組んできました。

市長 心強い。偉いですね。この結果は立派です。一般的に、公務員は、自己の能力向上のために投資しないと言われます。市役所に入って10年たったとき、民間と比較すると、資格の取得が足りない。上司や、職場の雰囲気、資格の取得などをあまり奨励していないので



はないかと思います。この研究会については、資格を取得しようという気分の醸成がなされていることがうれしいですね。

メンバー やりがいにつながるといいと思っています。直接、業務につながらなくても、いろいろなよい効果があるのではないのでしょうか。

メンバー 主に、新卒採用の技術職員を対象として、仕事に必要な知識を学んでもらうため、昼休みに学習会等を行っています。

メンバー これで説明、報告を終わります。これから、こうしたことを踏まえて意見交換ができればと思います。

市長 昔、仕事でお世話になった、みなさんの大先輩にあたる技術職員の顔を懐かしく思い出しながら聞いていました。

現場での対応の仕方により、技術が無駄になったり、効率的な運用を実現できたりするものです。市民の方に有効で快適な思いを提供するのは、第一線で頑張っているみなさんのチームワークです。

技術職として磨きをかけ、専門性を発揮するだけでなく、より広い場で活躍してほしいと思います。そして、いずれは組織のトップリーダーになって欲しいものです。市役所から、市全体のエネルギーマネジメントまで行う

ことができればいいですね。

メンバー　　まずは、所管課の事務職員に頼られる存在にならないかなと思っています。相談をしてもらい、答えることで、問題解決につながりますし、信頼関係もできます。頼られることで改善の提案ができます。大切なのは、一緒に汗をかくことです。市長がお話をされた技術職員のような、記憶に残る何かを残したいです。



メンバー　　いい意味で、名前を売っていくような活動をしていかなければならないと思います。研究会としてだけではなく、技術職員としてもそうです。そもそも、担当と事業課のあいだのやりとりはあるのですが、その他の部署にもっとアピールできればいいなと思います。ひとつには、今日のような機会ですね。

市長　　みなさんの取組と、環境政策局との取組のマッチングが起きればいいですね。たとえば、グリーンカーテンですね。ゴーヤを植えると、室温が3℃程違うのです。食べられるし（笑）。そのような取組が大事ですね。

メンバー　　将来的には、診断・把握・管理・提案を行う仕事も必要だと思います。我々もその準備をしていきます。いかに相手にわかってもらうかが大事ですね。そのためには、自分も汗をかくことが大切ですね。

市長　　ところで、こまめに電気を切るといったことは徹底されてきていますが、実は、室内をそれほど明るくする必要はないのですね。ある先生がおっしゃっていましたが、ヨーロッパは間接照明が多く、日本ほど室内を明るくはしていません。あるコンビニエンスストアが、LED 照明を設置するなどしてCO2 を3割カットしました。いつも薄暗いですが、それくらいでいいんです。

メンバー　　ぜひ、省エネ条例を作ってください。（笑）

市長　　文部科学省が、学校の黒板面の照明については200ルクスを300ルクスに上げた。しかしそれ以上は不要ですね。そこで学校の主体的な取組で教室の南側の電気は消してもいいなどの取組を徹底的にやり、節約ができた電気代を図書費などに活用する取組を行いました。

ライフスタイルも含めたエネルギーマネジメントが必要ですね。技術や知識に磨きをかけてもらうと同時に、トータルに実践し、発信をしていかなければなりませんね。技術者が、より広い視野から助言をしてくれると説得

力がありますから。

メンバー 校長先生など施設を管理されている方々は、個々では頑張っていますが、市有建築物のエネルギー量については一元管理ができていません。

市長 ホームページでオープンにしていくなど、すべての学校、児童で環境宣言をするくらいの刺激を与えてもらうのもいいですね。

メンバー 使っている人は、無駄遣いだという意識はありません。他の施設と比べなければ分かりませんから。

メンバー データを集約して比較することが大事です。これが原因であるからこの部分をこうしたらよいと提案できなければならないと考えています。

メンバー エネルギー消費量を相対的にみなければ、わかりませんから。一元的に把握ができれば、切磋琢磨して改善する余地が生まれます。市が、光熱水費に何億も使っているとしたら、1%削減をしても大きいですね。そういう風に、具体的に提案ができればいいと思います。

市長 無駄が浮けば、その浮いた分を還元する仕組みが必要ですね。



メンバー そうですね。還元のような、やる気を起こす刺激を与えることで、変わってくると思います。

メンバー 市長のお話を聞きまして、どんどん現場に出て、意見を吸い上げなければと思いました。

メンバー 学校独自の取組もあるので、現場の知恵もぜひ教わりたいですね。学校は、電気の計測器が見える形で使用しています。

市長 現場は大事ですからね。

メンバー 我々は、設備機器を見ていることが多いのですが、実際は、運用の仕方をうまく組み合わせるほうが、効果が大きいと思います。そういう取組ができればいいですね。

市長 ところで、技術職は、市役所全体でどれくらいですか。

メンバー 市長部局と交通、水道を合わせて、電気技術職員が約 300 名、機械技術職員が約 220 名、建築技術職員が約 270 名です。

市長すごい勢力ですね。

メンバー 建築技術職のほぼ全員と、電気・機械技術職員の約半分が市長部局に配属

されています。そのうち、都市計画局には電気技術職、機械技術職がそれぞれ 40 名程度ずついます。

メンバー 現場で得る技術力もたくさんあります。トラブルに対応することも、現場で学ぶことのひとつです。

市長 今後、どんどん技術革新が進んでいけば、市政でも、国政でも、市民生活でも、その技術に対応することが最大の課題です。団塊の世代が引退することもありますし、こんな時によく、会を立ち上げてもらったと思います。

メンバー 会の名前については、大風呂敷かもしれないと思いましたが、目標の数字を掲げて闇雲にエネルギーを削減するのではなく、どこに投入するかを考える、それがマネージメントだと思い、つけました。

市長 最高ですね。「エネルギーマネージメント局」を作ったらいいぐらいですね。
(笑) どんどん「大風呂敷」を広げて、発信し、実践し結果を出してください。名は体をあらわすといいますからね。ありがとうございました。

メンバー ありがとうございました。